

朝倉 摂 「リアルの自覚」



《日雇の母》1953年、紙本着色、実践女子大学香雪記念資料館蔵

2017年11月6日(月) → 12月16日(土)

実践女子大学香雪記念資料館 企画展示室 1・2

〒150-8538 東京都渋谷区東1-1-49 Tel. 03-6450-6805 HP <http://www.jissen.ac.jp/kosetsu/>

開館時間=10:00-17:00 *11月17日(金)、12月15日(金)は18:00まで開館

休館日=日曜日、11月27日(月)[展示替えのため]

観覧料=無料

主催=実践女子大学香雪記念資料館 協力=朝倉摂アトリエ、練馬区立美術館 後援=渋谷区教育委員会

舞台美術家として著名な朝倉摂(1922-2014)が若き日に日本画家として活躍していたことはあまり知られていません。父は彫刻家朝倉文夫、妹はのちに彫刻家となった朝倉響子という環境のもと、日本画を伊東深水のもとで学び、早くも1941年、19歳で文部省美術展覧会(新文展)に入選しました。戦後は、より現実に迫る絵画表現を追求し、労働者を題材にした作品を描きます。60年代には、社会に内在する問題を主題に、むしろ写実を離れ、新しい表現方法を模索します。60年代後半には舞台美術が制作の中心となり、1970年の渡米経験後は画家時代をふりかえりませんでした。しかし当時の活動は既存の美術の革新をめざした画家のひとりとしてきわめて重要です。このたびこれら渡米以前の作品を当館にご寄贈いただいたことを記念して本展を開催し、朝倉摂の前半生の制作の現場に迫ります。



《神話の廃虚》1964年、合板着色



《更紗の部屋》1942年、紙本着色、《群像》1950年、紙本着色、練馬区立美術館蔵 練馬区立美術館蔵



《部屋》1957年、画布着色



舞台美術下絵「メアリー・スチュアート」(文学座、1968年12月)水彩他/紙

S e t s u A s a k u r a



舞台美術下絵「コビュ王」(劇団青俳、1967年3月)水彩他/紙



絵本原画『うりこひめとあまんじゃく』(木島始、岩崎書店、1968年)水彩他/厚紙、個人蔵



絵本原画『赤いろうそくと人魚』(小川未明、講談社、1970年)水彩他/紙、個人蔵

*一部作品に展示替えがあります。 *所蔵先の記載のないものは実践女子大学香雪記念資料館蔵

【関連イベント】*いずれも聴講無料、事前申込不要

● 講演会

11月25日(土) 14:30-
実践女子大学創立120周年記念館(渋谷キャンパス) 501教室

児島 薫(美学美術史学科教授)
「朝倉摂—日本画からの出発」

関 直子(東京都現代美術館主任学芸員/
女子美術大学特任教授)
「戦後美術の中の朝倉摂」

● ギャラリー・トーク

11月11日(土) 14:00- / 11月17日(金) 17:30-
12月9日(土) 14:00- / 12月15日(金) 17:30-
各回30分程度

【交通案内】

- JR/東京メトロ/東急/京王
「渋谷駅」東口から徒歩約10分
- 東京メトロ「表参道駅」B1出口
から徒歩約12分

*当館は、実践女子大学渋谷キャンパスの創立120周年記念館1階にあります。ご来館の際には、駐車場がございませんので、公共の交通機関をご利用ください。また、六本木通り沿いにある正面入口右手の警備室に、入館の旨をお伝えください。

